

「国産大豆の需要」と 「実需者による大豆生産へのかかわり」について

中四国地域における
需要に応じた
大豆生産セミナー（オンライン）
講演会資料（2023.2.21）



おいしさをずっと、400年。
東ヒガシマル醤油株式会社

業務部 農産事業課
課長 徳力 望

沿革：おいしさをずっと、400年。



- 天正年間（1580年頃） 片岡治兵衛が**創業**
1592年 宮中から菊屋の屋号を賜る
- 寛文6年（1666） 龍野で**淡口醤油誕生**
- 明治2年（1869） 藩物産蔵で**浅井醤油創業**
- 明治26年（1893） **菊一醤油造合資会社設立**
- 昭和17年（1942） 浅井・菊一合併、**龍野醤油(株)設立**
- 昭和39年（1964） **ヒガシマル醤油(株)に社名変更**
- 昭和41年（1966） **ヒガシマル食品(株)設立**
- 平成20年（2008） だしづくりの生産拠点 **平成西工場完成**
- 平成24年（2012） ヒガシマル**食品新工場竣工**



社名・マークの由来

脇坂藩の「物産蔵」が、『東蔵』と呼ばれていた

「社運が旭日昇天の勢いなれかし」の願いを込めて定めた

経営理念と品質目標

経営理念

1. **お客様**からは
「**ヒガシマル**の商品があって良かったなあ」
2. **お取引先**からは
「**ヒガシマル**と取引して良かったなあ」
3. **全社員**からは
「**ヒガシマル**に勤めて良かったなあ」
4. **地域**には
「**ヒガシマル**という会社があって良かったなあ」
と心から言われる会社作りを目指します

品質目標

自然なおいしさを通じて「健康と長寿」そして
「楽しく、豊かで、安全な食生活」に貢献する



三位一体像

国産大豆の需要・・・3つの観点

- 1) 国産大豆の需要
交付加価値商品
 - 2) 国産大豆の需要：地産化レベル
地域社会への貢献＝地産化
実需者による大豆生産へのかかわり
 - 3) 国産大豆の需要：地産化の拡大レベル
資源循環型農法による生産拡大
共同研究の連携体制
- 最後に



国産大豆の需要・・・高付加価値商品

自然なおいしさを通じて「健康と長寿」そして
「楽しく、豊かで、**安全な食生活**」に貢献する



安心いただくための国産原料

国産原料使用の醤油商品



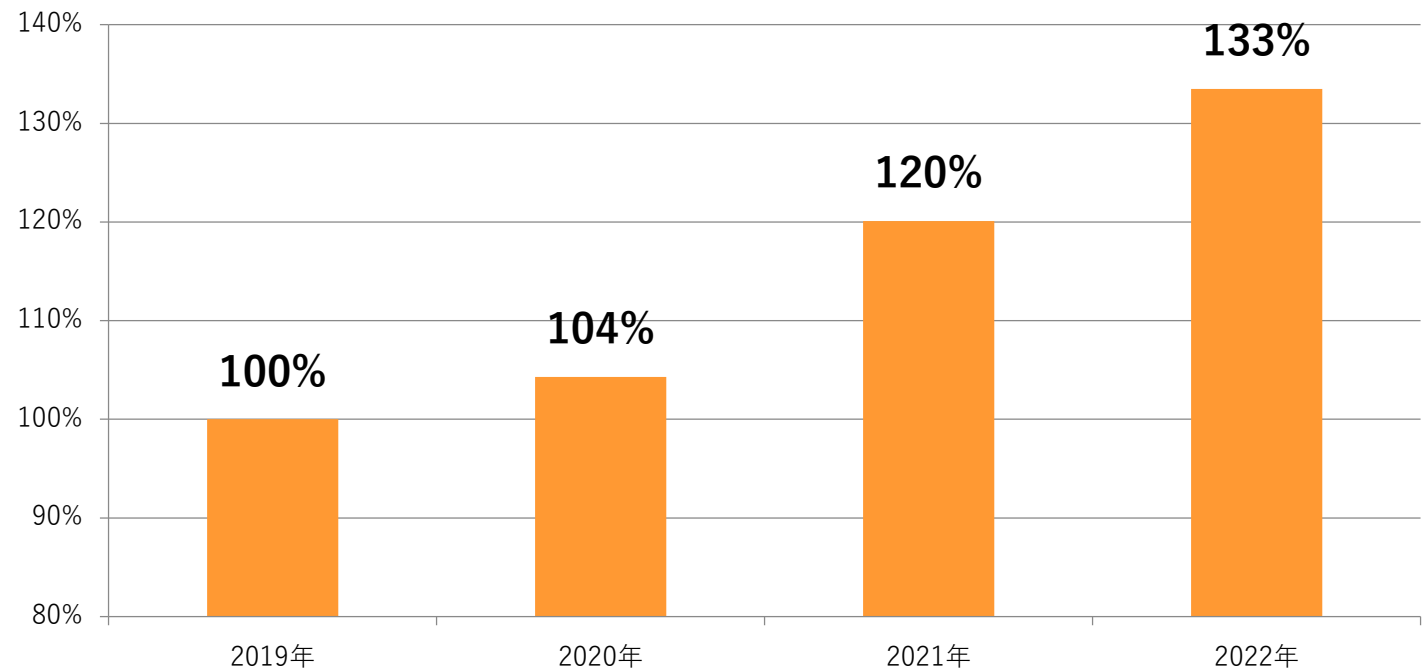
「目に見える原料調達」
醸造用高品質小麦・大豆の地産化

オール播磨産原料の 龍野乃刻



国産原料のしょうゆの伸び

国産原料のしょうゆは
お客様からご支持をいただき、
出荷数が伸びています



当社「大豆、小麦、米100%国産原料のうすくちしょうゆ」の出荷ケース伸長率
(当社出荷ケース数の2019年を100%として核燃を比較)

国産大豆の需要・・・3つの観点

- 1) 国産大豆の需要
交付加価値商品
 - 2) 国産大豆の需要：地産化レベル
地域社会への貢献＝地産化
実需者による大豆生産へのかかわり
 - 3) 国産大豆の需要：地産化の拡大レベル
資源循環型農法による生産拡大
共同研究の連携体制
- 最後に



2) 国産大豆の需要：地産化レベル

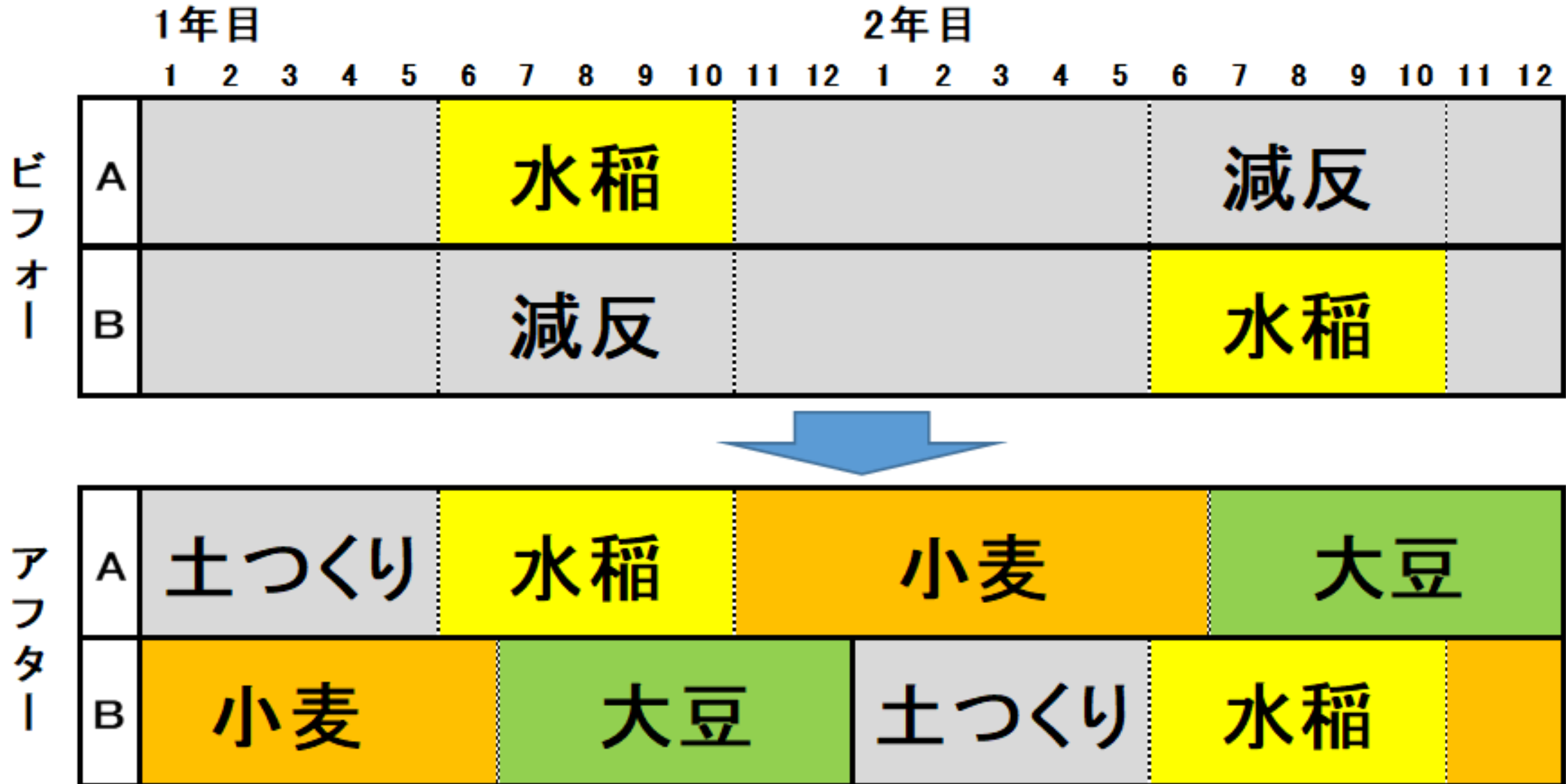
- 4. **地域**には
「**ヒガシマル**という会社があって良かったなあ」
と心から言われる会社作りを目指します
- 「おいしさをずっと、400年。」・・・

● 「地域社会への貢献」＝地産化

地元産原料調達の現状

- ・ **生産者は、地元で、**醤油醸造用の小麦・大豆を**生産する**
- ・ **ヒガシマルは、**生産物は**全量買い取り・醤油を造る**

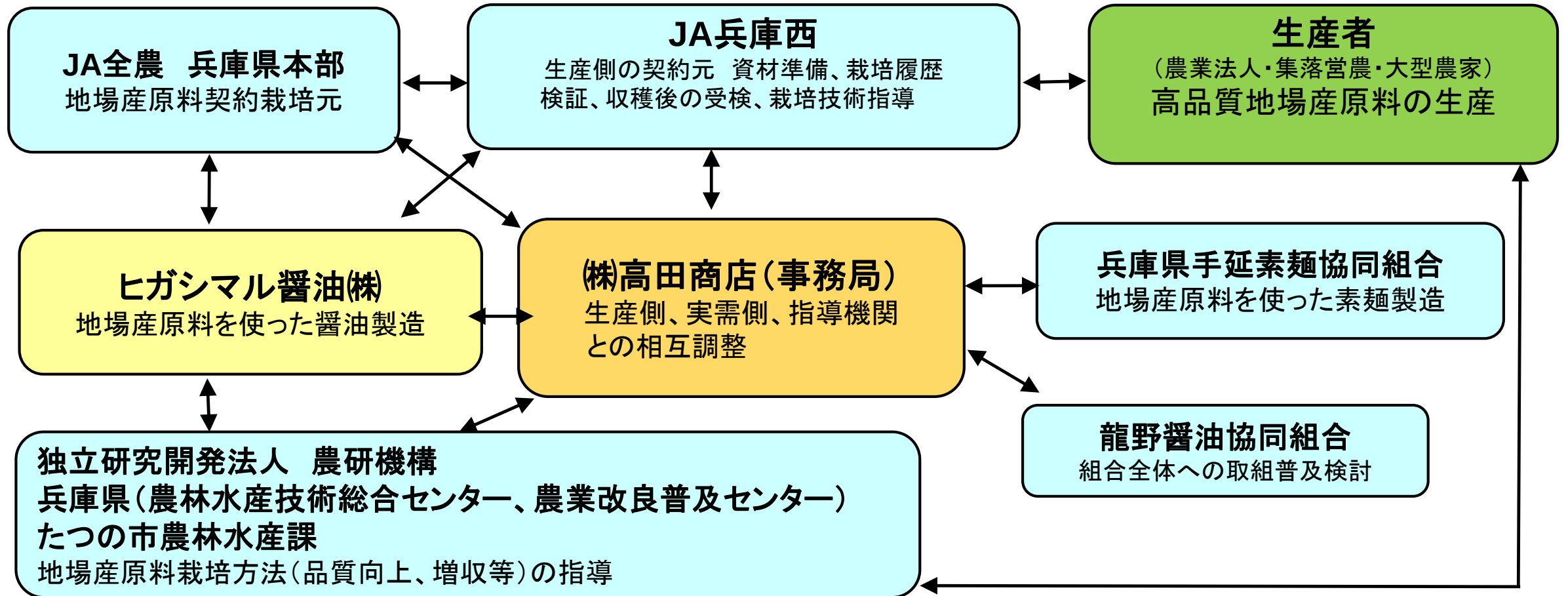
2年3作 + 土づくり で圃場の利用率アップ



2年3作ブロックローテーション



「農商工・公」連携体制図



生産・実需双方にメリットが創出・享受されることを基本理念に、各団体が役割を明確に活動し、取り組みの継続・拡大、そして地域社会貢献に結び付いている

醸造用小麦・大豆の「定点ほ場」



月1回の「巡回研修」



- ・ 定点圃場の調査

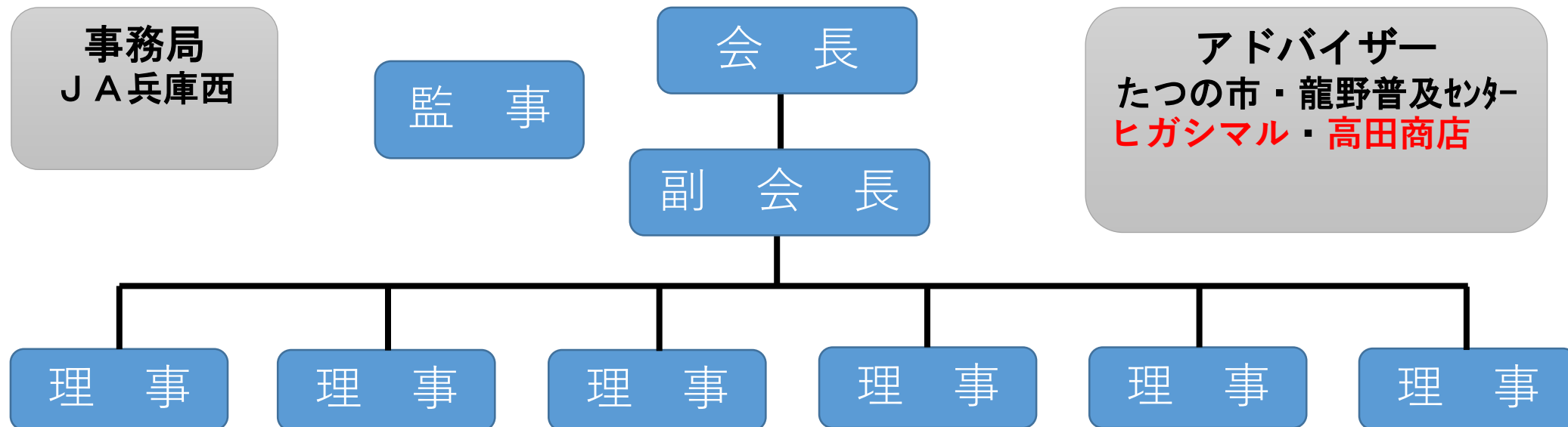
小麦・大豆の生産団体の代表ほ場を定点とし、指導機関による生育調査を実施する。

- ・ 月1回程度の巡回研修

マイクロバスに同乗し、定点ほ場を巡回し、調査結果をもとに、指導機関による栽培指導を実施している。

たつの市集落営農連絡協議会（平成19年発足）

特定農業団体8組織・農業法人9組織



◎理事会・・・年間数回開催、現地研修会・視察研修会・行政団体等の意見交換会の開催、各部会から提案の検討、各部会の調整、肥料・農薬の一括購入、受委託体制作り、法人化の検討

水稻部会

小麦部会

大豆部会

土づくり部会

そば部会

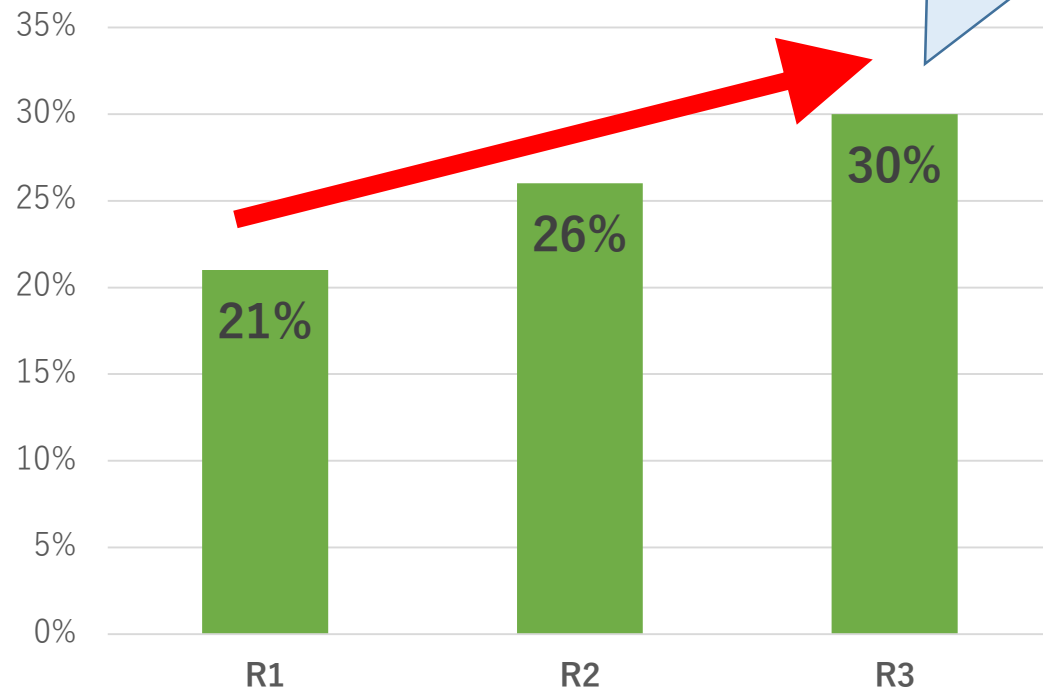
株式会社グリーンファーム揖西 令和3年度 全国麦作共励会 農林水産大臣賞



令和3年度麦作共励会において、たつの市の(株)グリーンファーム揖西は、地元大手醤油メーカーの需要と結びついた高タンパク小麦「ゆめちから」の高品質生産や、JAとの連携や試験機関との共同研究等による安定生産（県平均の約2倍の単収）が評価され、農林水産大臣賞を受賞した。

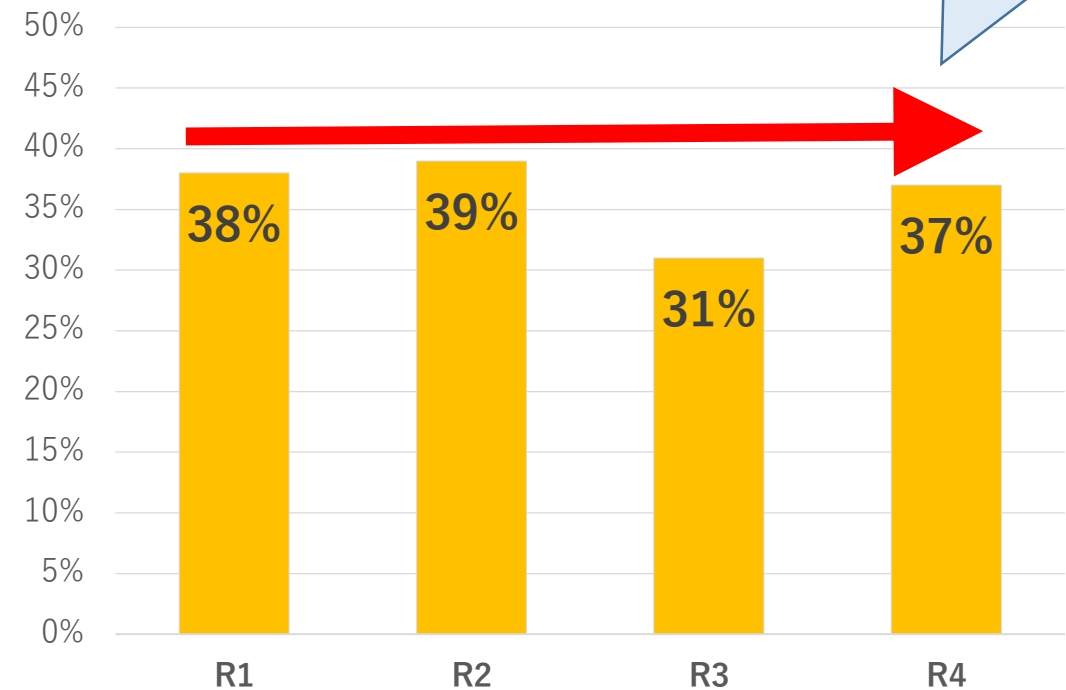
兵庫県産 大豆・小麦の使用量

兵庫県産 大豆の内、
ヒガシマルが使用する割合



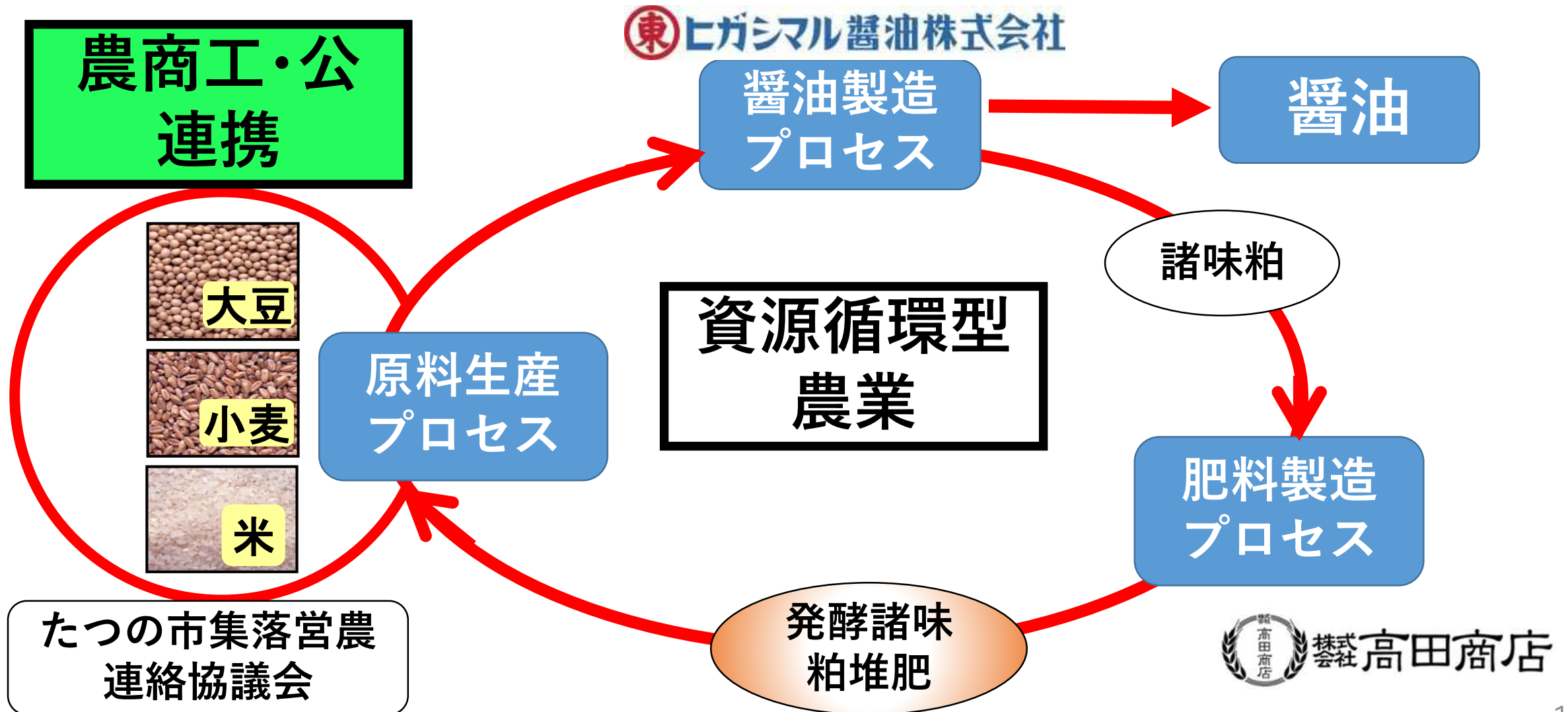
年々**増加**

兵庫県産 小麦の内、
ヒガシマルが使用する割合



約4割

●実需者による大豆生産へのかかわり

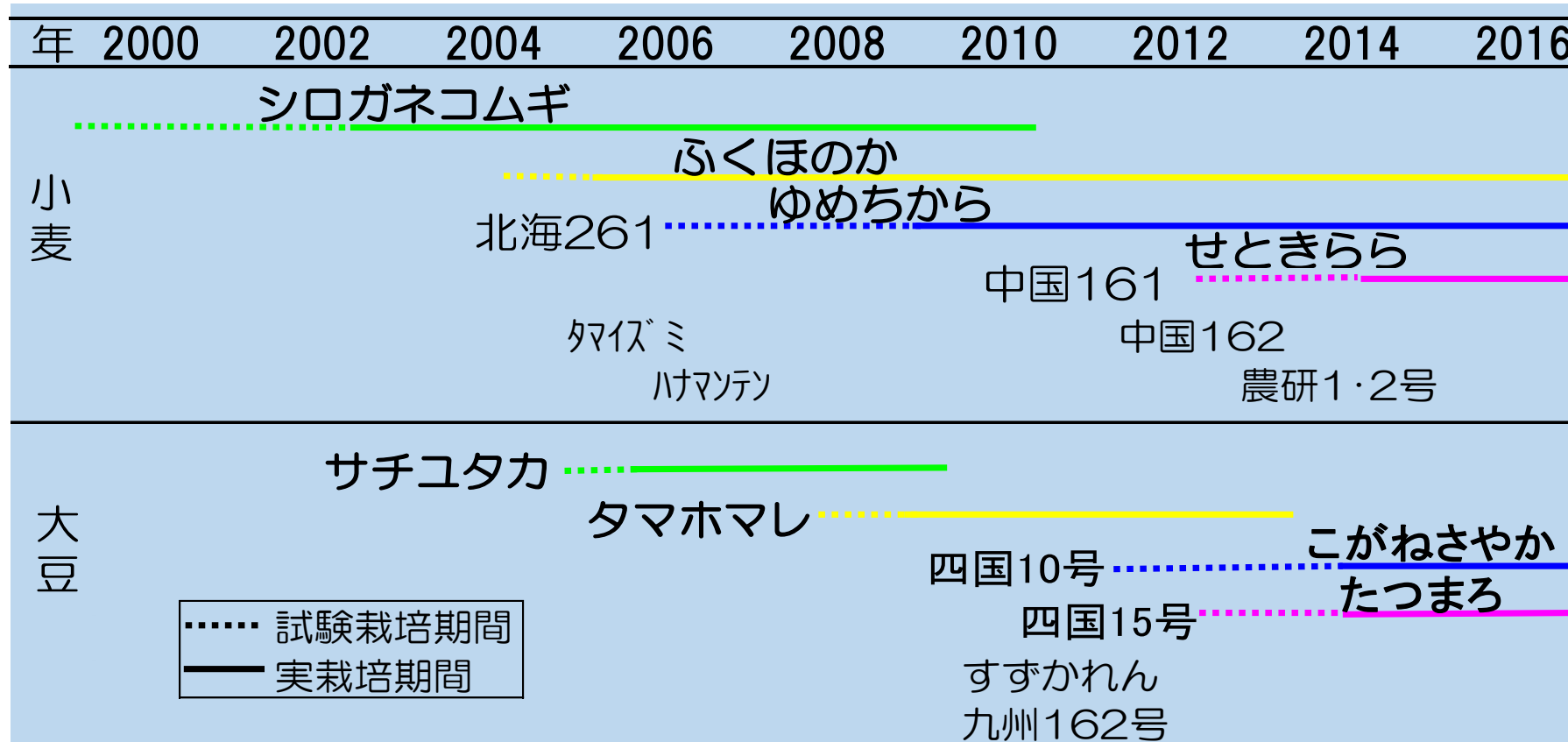


「大豆」の品種開発・栽培技術開発



「品種」の沿革：ステージ1～3 ⇒ 4

ステージ1 兵庫県の奨励品種	ステージ2 醸造好適の既存品種	ステージ3 農研機構の新品種	ステージ4 醸造用 新品種開発
小麦： シロガネコムギ 大豆： サチユタカ	ふくほのか タマホマレ	北海261号 ⇒ ゆめちから 四国10号 ⇒ こがねさやか 四国15号 ⇒ たつまる	○ ○ ◎



ステージ4：醸造用大豆の新品種開発



農研機構
西日本
農業研究センター
「共同研究契約」

毎年、新品種候補
の現地実証試験
に取り組む

大豆栽培技術開発①

H29農林水産省委託プロジェクト
たつの現地実証試験



慣行：

中粒7kg/10a
(25粒/m²)

収量：212kg

試験：

小粒7kg/10a
(35粒/m²)

収量：256kg

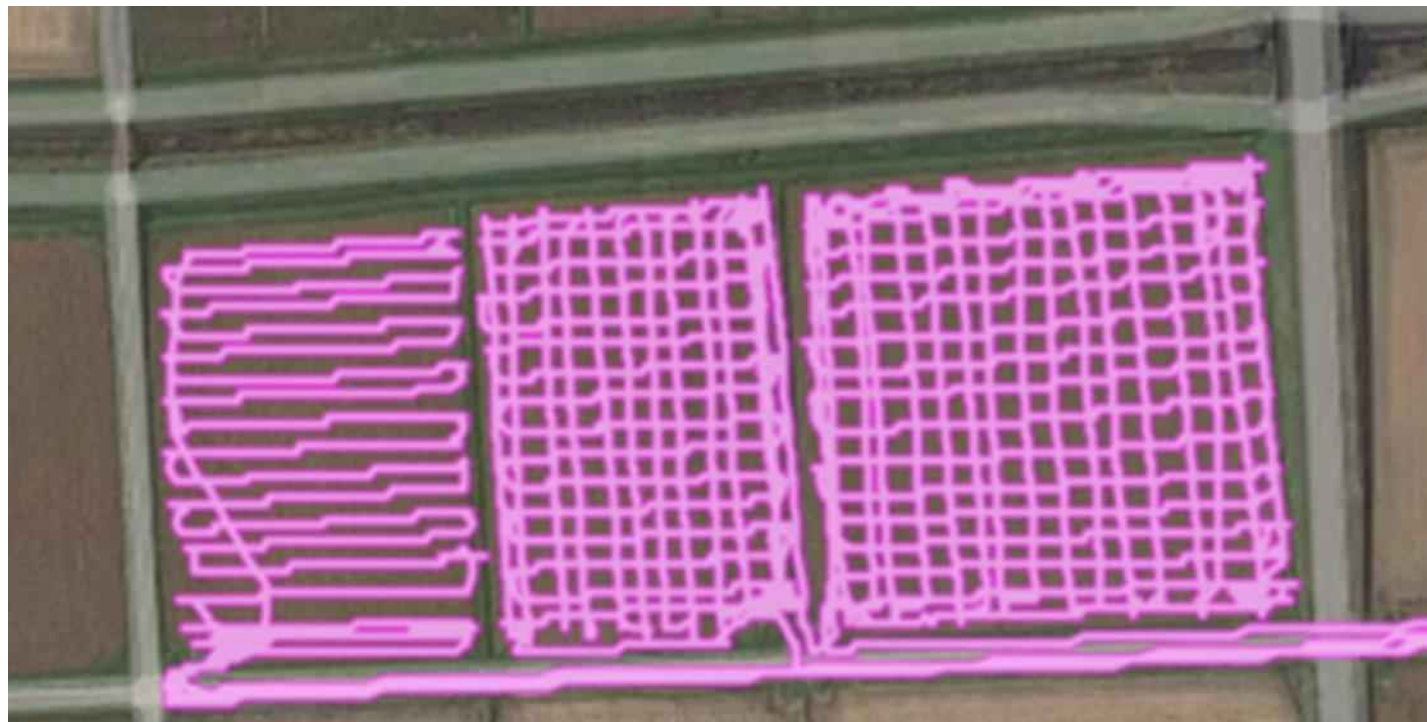
試験：

小粒8kg超/10a
(40粒/m²)

収量：231kg

大豆栽培技術開発②

H29農林水産省委託プロジェクト
たつの現地実証&兵庫県農技センター



試験:①額縁明渠
②弾丸暗渠
短辺20本
③スタブルなし

収量: ◎315kg/10 a

試験:①額縁明渠
②弾丸暗渠
短辺17本長辺12本
③スタブルなし

収量: 292kg/10 a

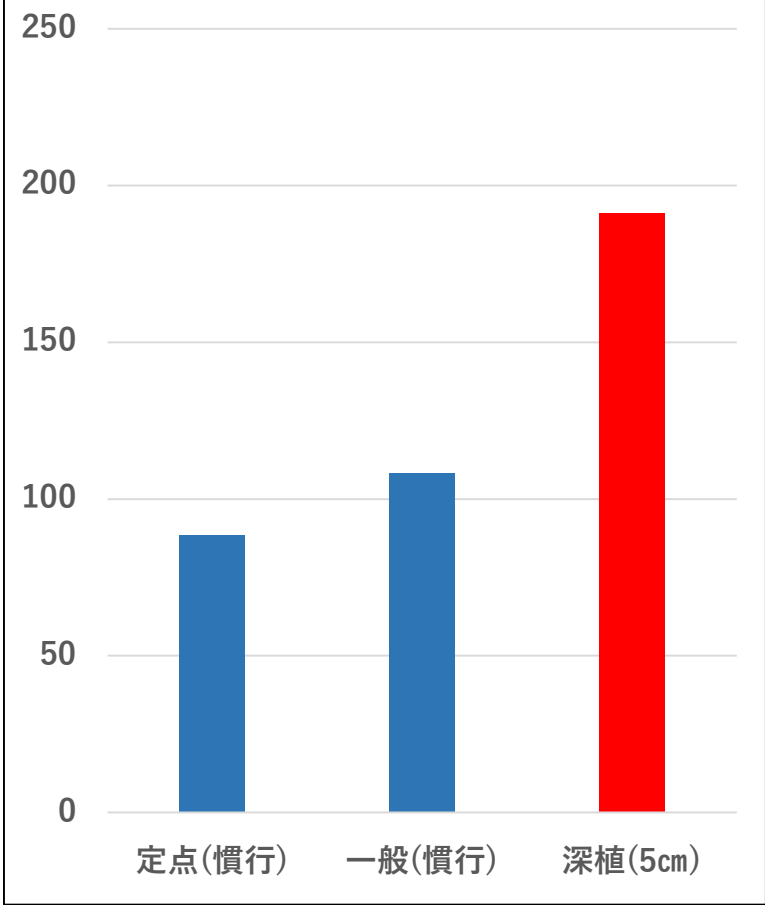
慣行:①額縁明渠
②弾丸暗渠
短辺17本長辺17本
③スタブルあり

収量: 272kg/10 a

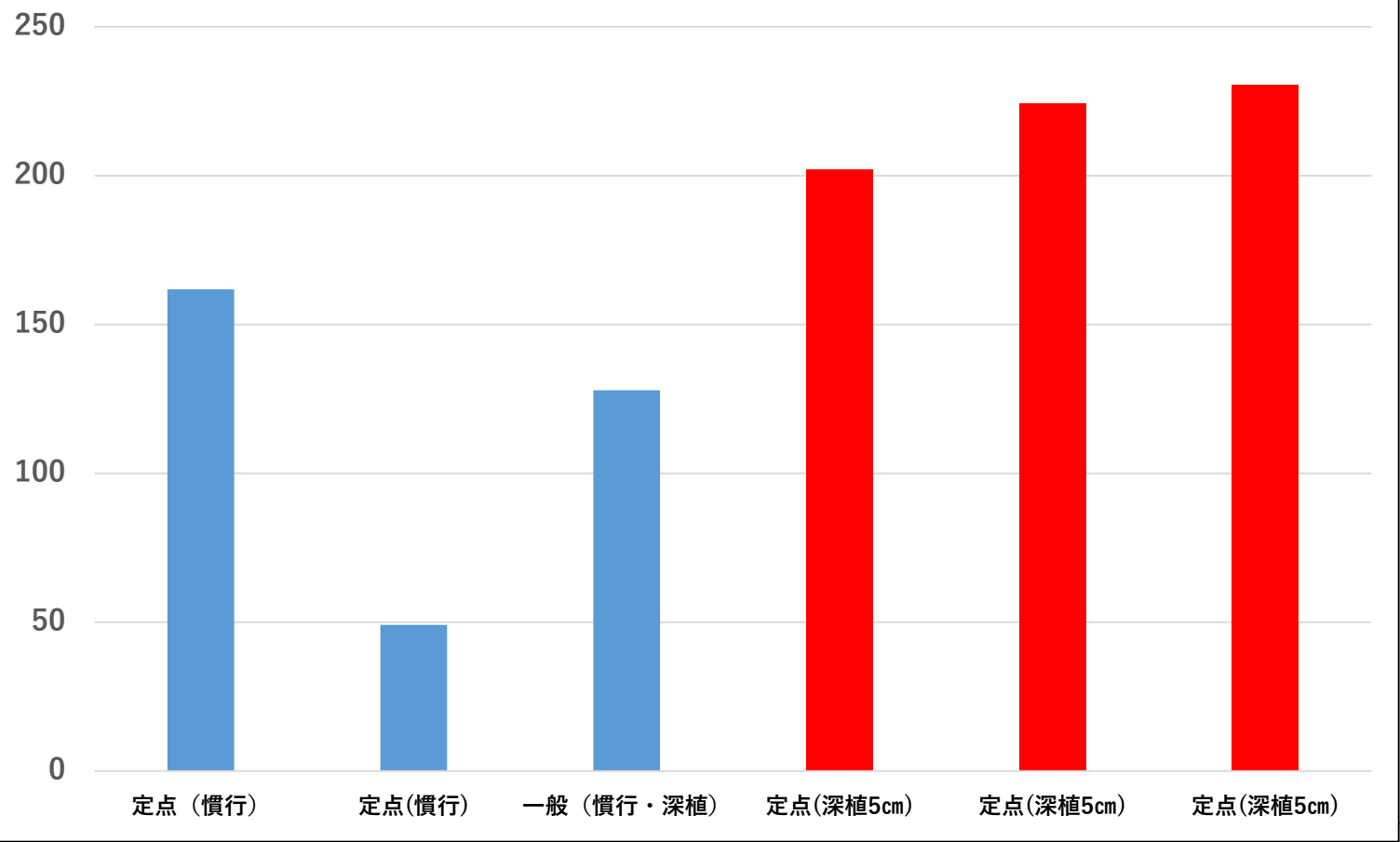
大豆栽培技術開発③

ヒガシマル + 生産者

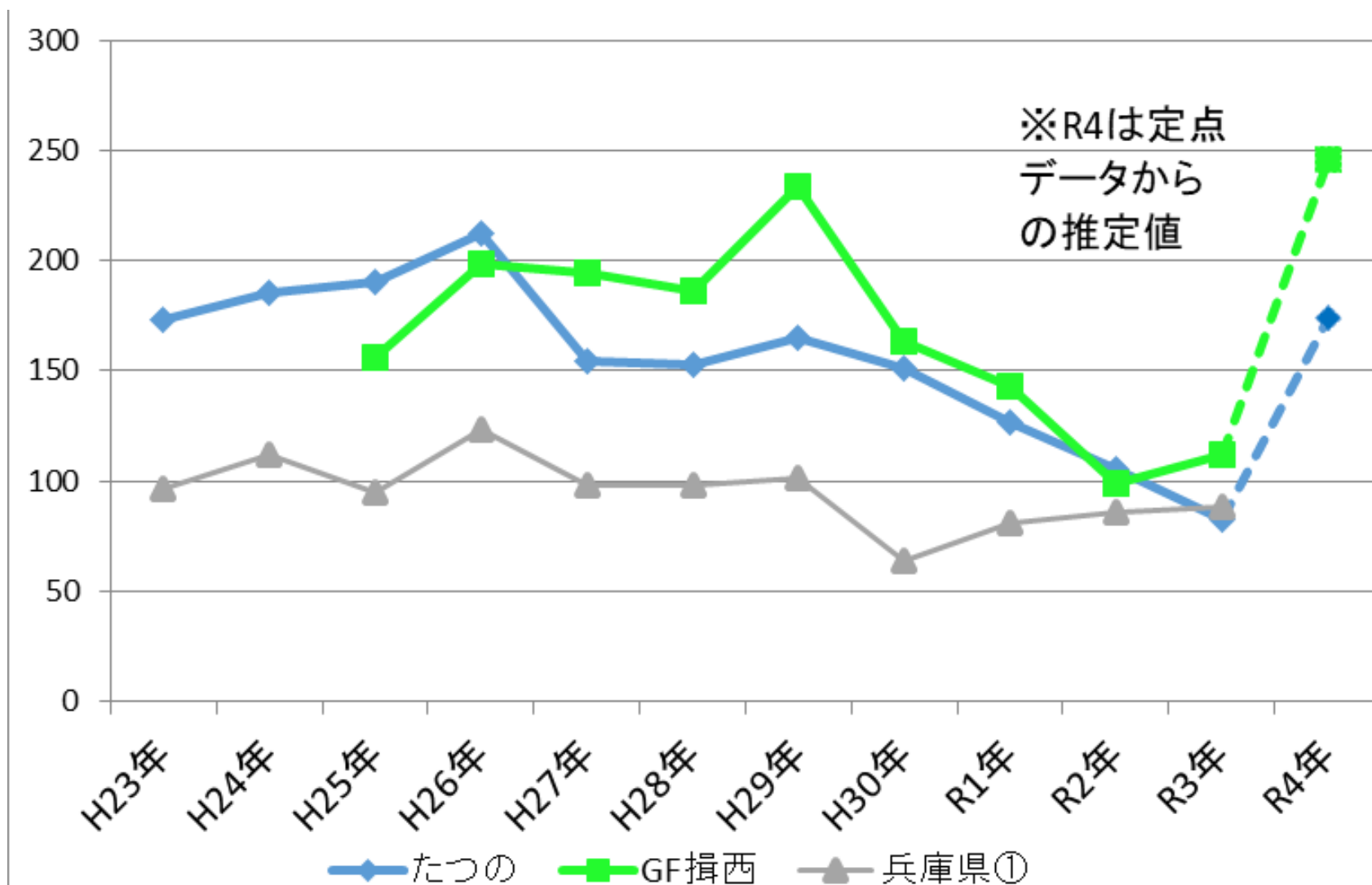
R 3 播種遅れ干ばつ対策
深植(5 cm)の増収効果



R 4 播種遅れ干ばつ対策
深植(5 cm)の増収効果



兵庫県・たつの・GF揖西 単収の推移



?

国産大豆の需要・・・3つの観点

- 1) 国産大豆の需要
交付加価値商品
 - 2) 国産大豆の需要：地産化レベル
地域社会への貢献＝地産化
実需者による大豆生産へのかかわり
 - 3) 国産大豆の需要：持続可能な醤油生産
資源循環型農法による生産拡大
共同研究の連携体制
- 最後に



3) 国産大豆の需要 地産化の拡大レベル

- ・ **これからもずっと、400年。**

地元で生産、生産物は全量買い取り・醤油を作る
発酵諸味粕堆肥で地力の維持向上を図り、

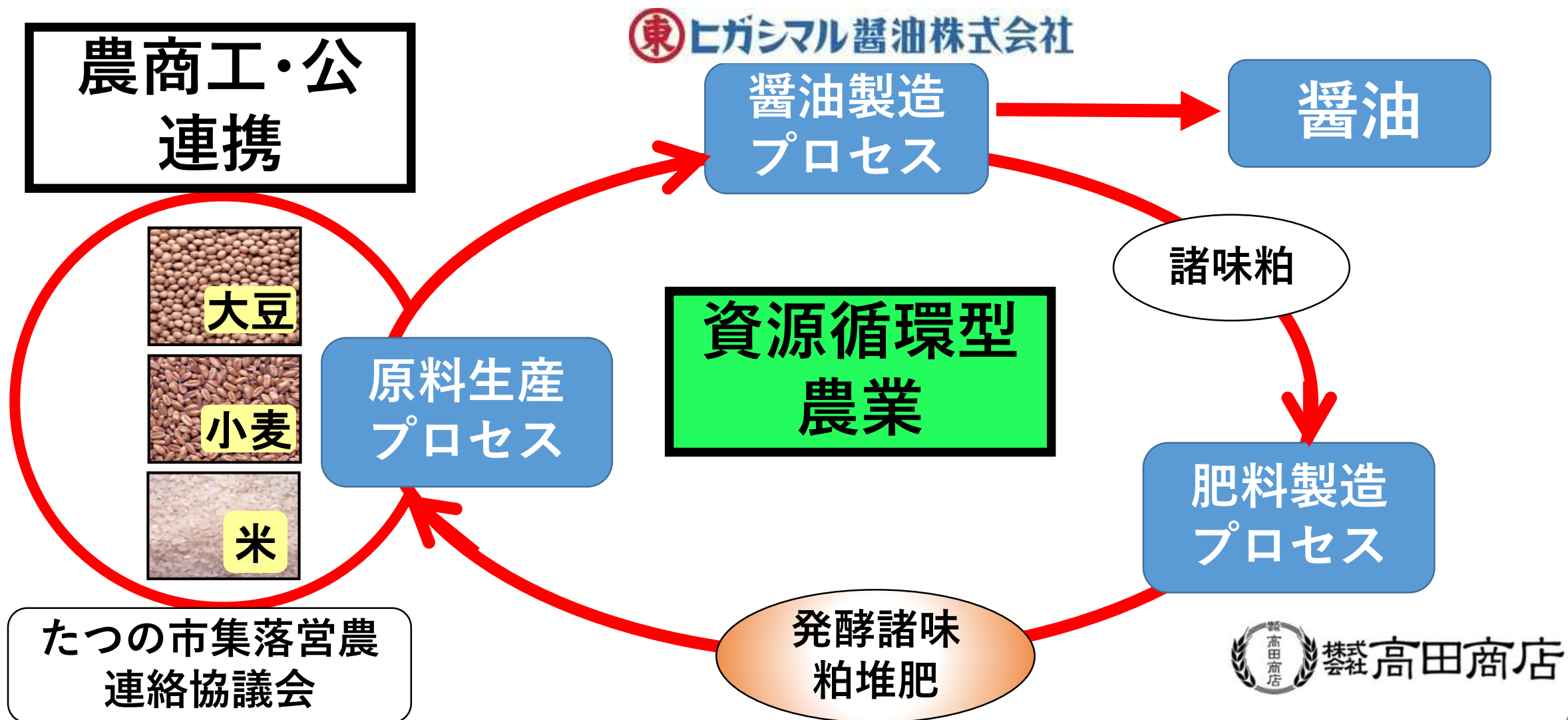
高品質品種で**永続的な農業**で、**持続可能な醤油生産**を目指す。

まだまだ足りない
地元産原料

このため、**地産化の輪を広げる**
地元での栽培面積の拡大 & 近隣への拡大

- ・ 2050年問題、プラネタリーバウンダリー、食料安全保障(食料は戦略物資)
地球人口は100億↑温暖化により畑地は減↓遺伝子組換え技術による単収増も限界
大量生産大量消費のツケ
- ・ 日本は今では買える、途上国は脱落、日本は自己調達せよ(世界の視点)
- ・ 国際情勢の不安→防衛力強化→グローバル化の歪

●資源循環型農法による生産拡大

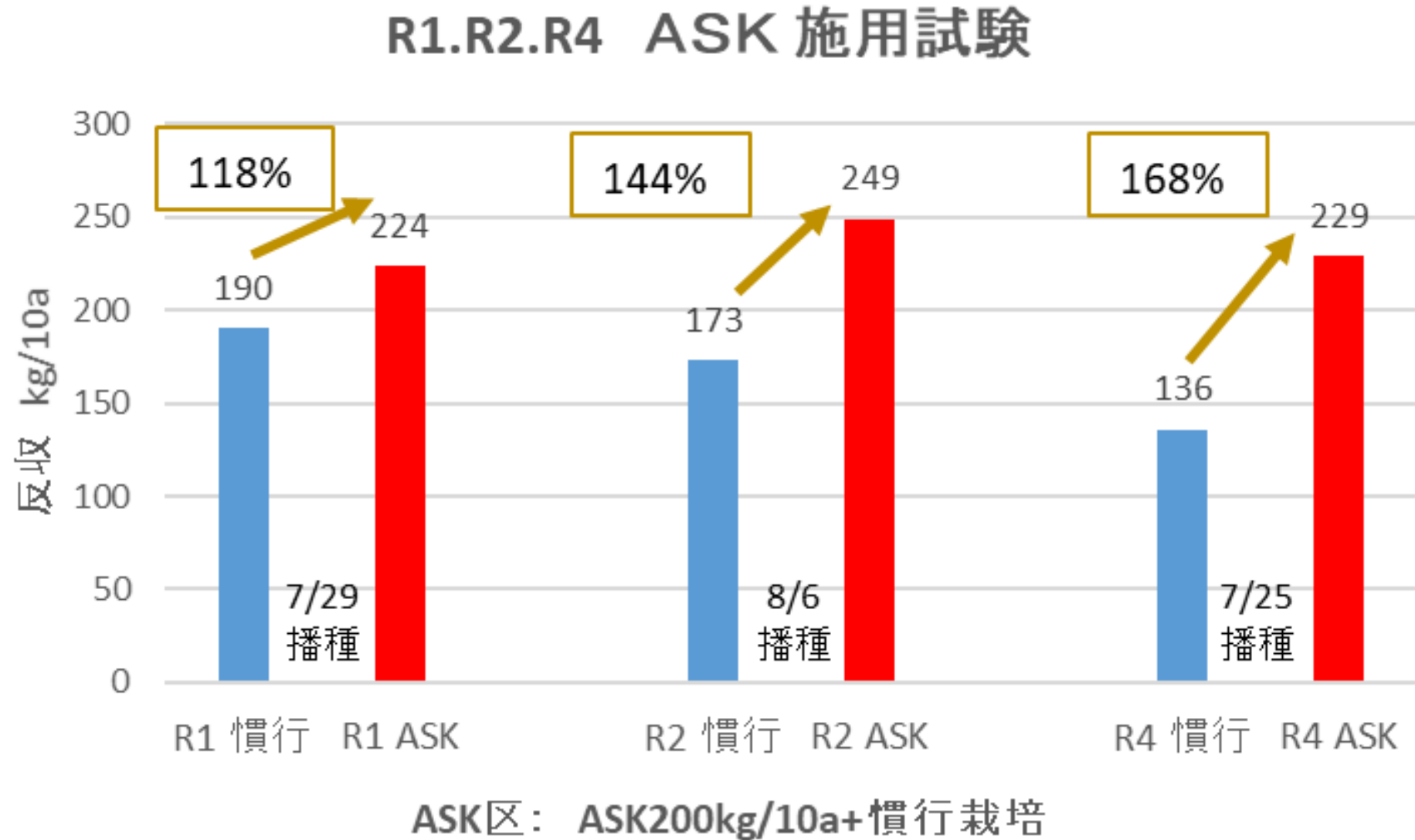


発酵諸味粕堆肥の製造と散布は？



(株)高田商店が担う

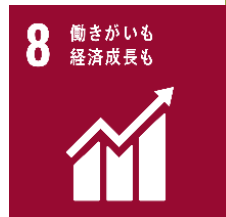
A S K (発酵諸味粕堆肥)で大豆増収



「発酵諸味粕堆肥」だけで米栽培

地元企業と連携した資源循環型農業の実現

～本当の持続可能性はここにある～



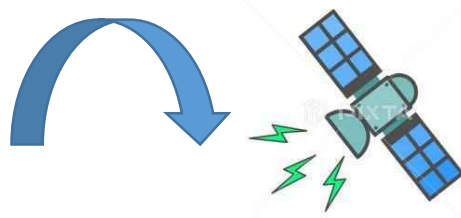
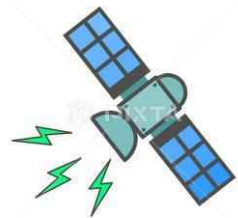
2023/02/01

発酵諸味粕堆肥の排水性・地力向上

農研機構との 新たな共同研究

- 土壌の物理的排水性評価
 - ガス拡散係数測定
 - 土塊法
 - 負圧侵入計
 - 土壌断面調査
 - 貫入式土壌硬度調査
 - 地下水位・土壌水分の変化
 - ドローンによるリモートセンシング
 - +
 - たつの地区小麦大豆の生育調査記録
 - +
- 発酵諸味粕堆肥





○アグリライト研究所・RESTEC
水稻情報→小麦栽培に活かす
小麦情報→大豆栽培に活かす
衛星リモートセンシング



○ヒガシマル農産事業課
(+マルチスペクトル
ドローンによる全圃場検証)



○兵庫県農技
水稻&高タンパク米
発酵諸味粕堆肥
栽培技術開発



○西日本農研
小麦品種開発
(+多収技術開発)



○西日本農研
大豆品種開発
(+多収技術開発)



○西日本農研
土壌排水性評価
+発酵諸味粕堆肥



○兵庫県農技
発酵諸味粕堆肥
ジャンボタニシ対策



○ヒガシマル農産事業課
発酵諸味粕堆肥の
作用メカニズムの解明



○西日本農研+BASF
大豆難防除雑草
アサガオ防除技術実証

●最後に 全量国産大豆にするためには

食糧量 = 面積 × 単収

1) 面積 : 拡大 = 大豆作の無い「田」で大豆作
: 能力 = 「地力」 OASK

2) 単収 : 能力 ↑

「品種開発」 O
「栽培技術」 OASK

「人の育成」

仕組み

技術の普及技術 =
栽培技術を普及させる
教育技術・機関

教育

